

第2回 大学と県教育委員会との連携推進会議

議事概要

1 日時：1月24日（火）14時30分～16時30分

2 場所：愛知県白壁庁舎 5階 第4会議室

3 出席者：資料1の出席者名簿のとおり

4 議事概要

(1)あいさつ

愛知県教育委員会 今井教育長より

(2)マッチングサイト「あいちの学校連携ネット」について

愛知県教育委員会より「あいちの学校連携ネット」の目的とこれまでの経緯、各ページの概要、今後のスケジュールを説明。

(今後のスケジュール)

2月中 「あいちの学校連携ネット」の試行運用

※各大学に平成24年度に実施予定の講座情報を入力してもらう。

3月上旬 システム改修

3月下旬 「あいちの学校連携ネット」の運用開始

(愛知県教育委員会)

情報の入力には各大学にID・パスワードを配付して、入力していただく仕組みのため、運用開始後は最新の講座情報を適宜入力していただきたい。

県内の高校生や教員、保護者には県教育委員会から配付物や広報誌などで幅広く周知していくため、各大学にご協力をお願いしたい。

(3)アンケート調査の結果について

愛知県教育委員会より資料3「アンケート調査の結果について」を説明。

○主なやりとり

(出席者)

本学では福祉教育を柱に取り組んでいるが、高校の先生方から「福祉教育は新しい分野のため、大学の力を借りたい」との声にもとづき、高校の先生方と実行委員会をつくり、毎年夏に福祉教育研究フォーラムを開催している。また昨年からは高校生と大学生の交流も始めたところである。

全国で福祉系の学部のある約100大学が加盟する日本社会福祉教育学校連盟が「高大連携」をテーマに行ったアンケート結果でも今回と同様の結果がで

ているが、現在の連携は高校生向けの出前講座やオープンキャンパスが中心となっており、教員同士の交流や大学生と高校生の交流は少ないのが現状。

そのため、マッチングサイトを活用して、連携を図っていきたい。

(愛知県教育委員会)

マッチングサイトを活用していただくことにより、大学側から生徒や先生に呼びかけていただけるようになることを期待している。

(4)大学生による学校現場における学習支援の充実について

愛知県教育委員会より資料4「大学生による学校現場における学習支援について」を説明。

また、大学の取組事例として、愛知淑徳大学から学校体験の関する科目の設置について、また愛知文教大学から近隣の市町村教育委員会と協定を結び特定の小・中学校と継続して実施している取組について事例発表いただいた。

その後、愛知県教育委員会より資料4「大学生による学校現場における学習支援に係る今後の取組について」を説明。

○主なやりとり

(出席者)

本学では、教育創造開発機構を設けて学内の5つのセンターを統合し、こうした学習支援を全学的に推進している。学生は授業の合間に活動を行うため、教員がコーディネートして学生を支えており、事前指導も行っている。

具体的には、小・中学校の英語については半年間、月曜日の午前中に29名が活動しており、担当教員が事前指導を行っている。また地域連携センターにおいては、外国人児童生徒向けに大学で教材開発を行い、それを使った支援をしており、28校で241名が年間を通して活動している。特別支援についても2つの市町の16校で31名が年間を通して活動している。また理科関係では、科学・ものづくり教育推進支援センターにおいて、小・中学校からの依頼に応じて学生と教員が教材を作成し、学校に出向いて活動している。

本学は教員養成系大学であり、こうした活動に対して理解を示しているが、単位化については教育職員免許法のしぼりの問題もあるため、まだまだ検討が十分ではない。

保険については全員が学生教育研究災害傷害保険に入っているため、こうした活動に適用できる。

本学は地理的に不便だが、近隣の市町村と包括協定や覚書を結ばせていただき、地域貢献として学習支援を行っており、学生にとってもプラスになっていると思っている。

(出席者)

本学では近隣市町村と協定を結んで外国人児童生徒の支援や小学校の英語の支援を行っている。参加する学生の学部が複数にまたがっているため、全学として学生が小・中学校に行く時間をどう確保するかがこれからの課題。

また、交通の便について、公共交通機関で行きやすいところとそうでないところで小・中学校に偏りがあり、申し訳なく思っている。そのため、マッチン

グサイトができれば、本学の場合、学生は県内全域から通ってきているため、自宅の近くの小・中学校にお世話になることにより、交通の問題が多少でも解消できることを期待している。大学として今後も学習支援を充実していく方向のため、よろしく願いしたい。

(愛知県教育委員会)

マッチングサイトにより学生がボランティアの形で地元の小・中学校で活動する機会を増やしていきたいと思う。

取組の拡大に向けて進めていきたいと考えているため、県教育委員会から提案させていただいた内容や4大学からご発言いただいた事例について、各大学でご検討いただくようお願いしたい。

(5)平成23年度の県教育委員会の取組の成果について

愛知県教育委員会より資料5「平成23年度の県教育委員会の取組の成果について」を説明。

(6)その他

(出席者)

大学進学率が50%を超える中、高校を卒業したけれども学力が不十分な学生もおり、このままでは大学の卒業証書の価値が落ちてしまう。そのため、高大接続の取組として、大学の先生と高校の先生によるリメディアル教育を検討していただきたい。こうした取組は個別の高校では限界があるため、この連携推進会議の中で協議の上、双方の教員による調査研究などの取組を実施していただきたい。

また、現在の会議のメンバーは4年制大学だけだが、高校生の進学先としては短期大学もあるため、今後は短期大学にも呼びかけていただきたい。

(愛知県教育委員会)

平成24年度は大学生による学習支援の拡大に向けた仕組みづくりを一步でも前に進めていきたい。また、昨年5月の第1回会議で協議させていただいた「京都の大学学びフォーラム」と同様のイベントの本県での開催について、具体的に検討してまいりたい。

併せて、ご提案いただいた内容についても検討してまいりたい。

(7)あいさつ(愛知県教育委員会 今井教育長より)

マッチングサイトを立ち上げていくからには、いい形にしていかなければいけないと思っている。今は箱ができたばかりで、これからの中身が大事。高校生や市町村教育委員会・各学校がしっかりと活用できるように積極的にPRしていくので、各大学においては情報を入力していただきたい。

愛知県では県内の大学と県内の小・中・高等学校が国公私立の枠を超えて連携していけるよう、今後ともよろしく願いしたい。